

子宮頸がんは予防できる！

文=齋藤 あゆみ(保健師)

図：子宮頸がんとう子宮体がんのちがい

頸がん

- 子宮の入り口である頸部の表面から発生する
- 20～30歳代で発症率が急上昇
- 初期は自覚症状がなく進行すると普段とは違うおりものが増える



体がん

- 子宮の奥にあたる体部の内膜から発生する
- 発症者は40歳代後半から増加し50～60歳代にピークを迎える
- 初期症状として、不正出血や排尿痛、性交時痛、下腹部痛が現れる



女 性特有のがんとして代表的なものに子宮がんと乳がんがありますが、今回は幅広い世代で予防が必要な子宮がんをご紹介します。

子宮がんには、「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2つがあり、がんになりやすい年齢や症状で違いがあります。特に子宮頸がんの初期は、自覚症状が現れにくいため、予防と検診による早期発見が大切です。(左図参照)

子宮頸がんは、性交渉によって感染するヒトパピローマウイルス(HPV)が原因で起こります。

HPVにはさまざまな型があります。このうち約15種類が発がん性HPVとされていますが、感染してもほとんどはウイルスが自然に排除されます。しかし、うまく機能せず、感染が長く続くと正常な細胞ががん細胞へと変化し、子宮頸がんを発症してしまいます。

(予防と早期発見その1)
子宮頸がん予防ワクチン接種

発がん性HPVの中でも、特に子宮頸がんになりやすいのが16型と18型の2種類。今はこれらのウイルスに対するワクチンが開発され、予防接種で感染を防げるようになりました。

町でも今年度から中学生と高校1年生を対象に子宮頸がん予防ワクチン接種を実施し、その費用を助成しています。ワクチンの供給状況をみながらの接種となりますので、詳しくは直接対象者に届く文書でご確認ください。

(予防と早期発見その2)
定期的な子宮がん検診

予防ワクチンの接種により発がん性HPV16型・18型の感染はほぼ100%防げますが、他の型による感染は防ぐ

まだ間に合います！ 乳がん検診・子宮がん検診・骨粗しょう症健診

日時 10月2日(日) 午前7:45 / 午後0:45
会場 すこやか健康センター
対象 乳がん検診・・・30歳以上の女性
 子宮がん検診(超音波検査)・・・20歳以上の女性
 骨粗しょう症健診・・・20歳以上の女性
 ※乳がん・子宮がん検診は、昨年受診している方は対象外。
申込期限 9月16日(金)
申込・お問い合わせ
 福祉課保健係(すこやか健康センター内) ☎0164-62-6020

ことができませぬ。また、すでに発症している子宮頸がんや前がん病変(がんに進行する恐れがある病変)の進行を遅らせたり、治すこともできません。

これらの異常を見逃さないためには、定期的な子宮がん検診を受けることが大切です。子宮頸がんは他のがんに比べ、早期発見しやすく治りやすいがんですので、20歳以上の方は2年に1回、子宮がん検診を受けましょう。